



九曲巷

九曲巷



SNET台湾 みんなの台湾修学旅行ナビ
https://taiwan-shugakuryoko.jp/spot_central/727/



エリア

彰化県

テーマ

歴史

建築

自然

防風と防犯機能をともに持つ街

鹿港老街に近い「九曲巷」は一本の通りではなく、幾つかの通りを合わせた一帯の愛称です。なかでも、もっとも代表的なのは「金盛巷」という通りです。「曲」いう文字から、ここは「曲がりくねっている街だ」とイメージできるでしょう。港に近い鹿港は、冬には、東北からの猛烈な季節風(東北モンスーン)が吹きます。東北モンスーンは「九降風」とも呼ばれます。九曲巷が曲がりくねったデザインとなった理由は強風から家々を守るためでした。また、曲がりくねった迷路のような街並では泥棒も逃げにくくなるため、防犯の役割もあります。九曲巷は防風と防犯の機能をともに持つ街なのです。

学びのポイント

1.

九曲巷は本当に曲がりくねった個所が九つありますか。

いえいえ。「九」は数字の一つですが、「数量が非常に多い」という意味も表します。「九曲巷」は「曲がりくねった個所が九つある街」ではなく、「曲がりくねった個所が大変多い街」という意味で名付けられました。

2.

九降風とはなんですか？

冬に入ると、東北からの東北モンスーンが台湾に吹き始めます。その風の勢いは、海の近くに住む人々の生活に影響を与えるほどの強さです。九曲巷は強風から家などを守るために曲がりくねったデザインとなりました。ただ、東北モンスーンは必ずしも良くないことばかりではありません。台湾の食材のなかには、この強い風を利用して作られるものもあります。例えば、新竹の米粉(ビーフン)、柿餅などは、九降風の強い風で干して作ったものです。

3.

九曲巷ではほかにも防犯機能が見られますか？

清朝期、台湾の地方の治安はあまり良くありませんでした。そのため民衆は泥棒や強盗から守るために、路地や家屋のデザインにいろいろな工夫をほどこしました。九曲巷の曲がりくねった設計もその一つです。ほかに家屋の両側の窓を小さくしていることや、「銃楼(銃眼を備えた建物)」に、防犯対策の痕跡が見られます。